

北海道民放クラブだより

日ハム応援団

後半戦初のドーム観戦

8月19日(土) 後半戦初の札幌ドーム観戦に日ハム応援団メンバー15名が参加した。この日は夏休み最後の土曜日、親子連れが目立った。また、前日、ライオンズにさよなら勝ちした勢いで、5連勝するかもしれないと、三万三千七百十八人が詰めかけて、超満員となった。

試合開始前のベースランニングには子供たちなど百人以上が走った。夏休みの良い思い出になったようだ。



ビール飲みながらの日ハム応援団

対西武ライオンズ戦は18試合目、これまで3勝しか挙げていない。

おまけに相手の先発が相性の悪い多和田、切れの良いフォークボールにチャンスが作れない。反対に先発の上沢が荒れていて再三ランナーを背負う苦しい試合展開。ビールを飲みながら、やきもきしているうちに上沢が4回秋山に2ランを浴びてしまう。先取点を与えると勝てないことの多い日ハムなので、敗色濃厚とみた応援団の女性5人が7回で帰ってしまう。

その7回ようやく大谷の2ベースで得点圏にランナーが出た。しかし、頼みの中田が三振、レアードも凡退で無得点。9回表には追加点を与えて3点のビハインド、完敗の状況だ。それでも、9回裏ようやくヒット2本が出て、2アウトランナー1、2塁の反撃チャンスが訪れた。しかし、頼みの中田がショートフライでゲームセット。大勢の日ハムファンをがっかりさせた。

二連覇どころかクライマックスシリーズ進出も早々と絶望的、応援団もあまり意気が上がらない。

球団側も来期を見据えた若手選手の育成起用法になってきているので、来期に望みをかけるしかない。

後半戦は大谷が投手で出る試合とレアードがホームラン王になるかどうかを楽しみにするしかなかった。

今期の日ハムは大谷の怪我や中田の不振、エラーの多い守備、機動力が生かせない攻撃、つながらない打線とマイナスイメージが多すぎた。せめて、最下位にならないことを祈るばかりだ。



日ハムの開閉式ドーム新球場予想図

ただ、ことし球団側が20ヘクタールのアジア一の新しいボールパ

ーク構想を発表した。夢のような構想で3万人収容の球場のほか、ホテルや遊園地も組み込まれるようだ。500億円の資金面や場所の選定等課題も多い。

北海道民放クラブ

新体制本格的にスタート

新しい会則による新体制が整い、新会長のもと、29年度新体制が本格的に8月からスタートした。その第1回同好会部会長会議が8月23日(水)に開かれ、各クラブ会活動の今後のスケジュールやイベントの会員への告知方法、ホームページ等で意見を交わした。

また、新体制になり、事務局体制も毎週水曜日午前10時から12時、担当者が当番制で出て、他の日は留守番電話とファクスでの対応となった。そして、連絡事項を共有するため、事務局に来た人は、ノートに事務内容を記入することとした。

なお、会員減少の対策として、放送局関係者以外も入会できることになり、早くも賛助会員に2人が加入した。関連企業の会員加入が待たれる。